

『AMI-CSにおけるImpella早期離脱の予測因子』 に関するご協力のお願い

研究の目的と意義	Danger shock trialで急性心筋梗塞を背景とした心原性ショックに対するImpellaの使用の有用性が報告されて以降、Impellaの使用は増えています。一方で、Impella CPの離脱が困難で人工心臓などより高度のデバイスが必要になる患者さんもいますが、それを早期に予測する因子は未だ不明です。 本研究により、Impellaの早期拔去が難しい症例群が同定できれば、早期のデバイスのup gradeや高次医療機関への速やかな搬送により、早期離床の促進や合併症の減少などが期待できる可能性があります。
研究の方法	2018年1月1日～2026年5月31日の間で、AMI-CSにおいてImpellaが導入された患者さんのデータを収集し、挿入から7日以内にImpella CPを離脱した症例と離脱ができなかった症例で単変量解析を行います。 その後、解析項目を3～4項目に絞って多変量解析を行います。
対象者	2018年1月1日～2026年5月31日の間で、AMI-CSにおいてImpellaが導入された患者さん
利用する試料/情報	研究対象者背景：年齢、性別、BSA 全身状態：来院時血圧、visual EF、AMIの合併症以外の中等度以上の弁膜症、VA ECMO併用の有無 血液生化学：Peak CK、Peak CK-MB、Peakトロポニン、初回Lac、Cre カテーテル：Culprit、多枝病変、Door to balloon time、Door to unload time、On set to Unload time
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1
研究組織	当院単独研究
試料/情報の院外提供	該当なし
結果公表	日本循環器学会総会で発表を予定しています。 公表する際は、研究対象者を識別することができないよう個人情報の保護に最大限配慮します。
試料・情報の利用又は提供開始日	院長による研究実施許可日
研究参加拒否・同意撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2027年2月28日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。 ただし、お申し出が研究結果公表後の場合は、撤回することが事実上難しい場合があります。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 集中治療科 / 医師 / 南川 竜輔
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 集中治療科 / 南川 竜輔